

「地球社会の調和ある共存」を基本理念としています京都大学では、社会や地域に開かれた大学として、様々な取り組みが行われています。平成十五年四月に全学共同利用組織として発足しましたフィールド科学教育研究センター(フィールド研)では、その一環として時計台対話集会を平成十六年七月に開催致しました。森と里と海の現地施設より構成されていますフィールド研の特徴を生かして、これまで全く個別に教育や研究が取り組まれていました森林科学と海洋生物学をつなぐ「森里海連環学」の創生を目標に、森と里と海の本来のつながりの再生に貢献できることを願っています。平成十六年度の対話集会では、五百名を超える参加者の七割以上の皆さんからアンケートを提出いただき、引き続き次年度も開催して欲しいとの多数の回答をいただきました。

「森里海連環学」が目指すところは、もとより大学内や学問領域内のみで達成できるものではありません。森里海連環学のよきな地域に根ざした新しい学問の創生には、社会との連携が不可欠と考えられます。幸いにもフィールド研が今までの垣根を越

えて外へ踏み出すことにより、新たなつながりが広がりとつあります。平成十七年度にはこのようなつながりの広がりを背景に、十二月十八日(日)に第二回時計台対話集会を開催することができました。森・川・海のつながりの再生運動の重要性を、研究者が気づくよりずっと早くから感じとり、それぞれのホームグラウンドを中心に多様な取り組みを進めて来られた、C・W・ニコルさん、天野礼子さん、畠山重篤さんとともに、本学尾池総長にも御講演いただくことになりました。

本講演録の第一章には第二回時計台対話集会の特別企画として、昆虫が大好きな解剖学者養老孟司さんと、蝶が大好きな(株)村田製作所社長村田泰隆さんの「横浪林海実験所」(高知県須崎市)開所記念対談を収録いたしました。第二章との関連の妙を感じとっていただければ幸いです。

本講演録が一人でも多くの方々の目にとまり、「森里海連環学」の広がりやそれらのつながりの再生に役立つことを願って止みません。